

【 設問アプローチ 】

[23 - A]

- 問1 : ① [設問チェック] 九郎右衛門と宇平が、文吉の言葉をどのように受け止めたのかを問われている。
また、設問を解くためのポイントを確認しておく。
- ・ 九郎右衛門 … 詞の返しようがなかった
 - ・ 宇平 … 蘇った思い
- それぞれの内容を本文中から明らかにする。
- ② [アプローチ] ①から、登場人物3人の「思い」と〈描写〉を本文から把握する。
- ③ [本文読解] ②を踏まえて、本文の内容を確認する。
- ・ 九郎右衛門の思い … 1～8行目。「辛抱して勤めてくれた」、「親切を尽くしてくれた」、「お前は忠実この上もない」という内容がある。
 - ・ 宇平の描写 … 9・10行目。「涙は頬を伝って流れていた」という〈描写〉がある。
 - ・ 文吉の思い … 11～16行目。「頭を擡げた」、「眼は異様に赫いている」という〈描写〉がある。
また、12行目から「このたびの奉公は…命はないものである」という〈心情〉を表す内容がある。
- 以上のポイントを受けて、傍線部の内容があることを理解する。
- ④ [判断基準] 文章冒頭から傍線部までの文脈を踏まえ、③で確認した内容のポイントを説明した選択肢を、解答として選ぶ。
- 問2 : ① [設問チェック] 傍線部に関して、九郎右衛門が宇平の様子をどのように捉えていたかが問われている。
- ② [アプローチ] (1) 「宇平の様子」を説明した内容を本文から確認する。
(2) (1)を踏まえて、九郎右衛門の捉え方、セリフの真意を確認する。
- ③ [本文読解] (1) 「宇平の様子」 … 27～36行目に当該内容がある。〈心情〉と〈描写〉をチェックし、内容を把握する。(読解チャートを参照)
- (2) 九郎右衛門の捉え方 … 傍線部の直前に「気にも掛けぬらしく笑って言った」とあるのが、《根拠》。また、傍線部の後の40・41行目に傍線部についての内容説明がある。
- ④ [判断基準] ③から、本文の内容を適切に説明している選択肢を、解答として選ぶ。
- 問3 : ① [設問チェック] 傍線部について、宇平の心情の内容説明が求められている。
また、設問文から答えを導くために押さえておくべきポイントを確認する。
→ 「宇平は黙った」 … なぜ黙ったのか、本文の文脈から内容を明らかにする。
- ② [本文読解] 傍線部前後の文脈は、宇平と九郎右衛門の会話を中心とした内容。
その内容を読み解くと、宇平と九郎右衛門には「考えのズレ」があることが分かる。
このことが、宇平を黙らせた要因であると考えられる。

また傍線部以降の内容を確認すると、58・59行目に「変な気持ち」がする、「どうして平気な様子」なのかというセリフがある。加えて、「また膝を進めた」という〈描写〉がある。

ここから、宇平は九郎右衛門との考えのズレを感じながらも、なんとか自分の考えを伝えようとしている様子が読み取れる。

- ③〔判断基準〕傍線部前後の本文の文脈、その内容を踏まえて、②のポイントを押さえて説明した選択肢を、解答として選ぶ。

問4 : ①〔設問チェック〕九郎右衛門が、「生真面目」になった理由を尋ねられている。

この、「生真面目になった」が設問のポイントの〈描写〉になっている。

また、九郎右衛門は普段は「何事も強いては笑段に取りなす癖」があったことを把握しておく。

- ②〔本文読解〕本文読解を通して、傍線部に関する内容が傍線部までの範囲にあることを〈予測〉する。

- ③〔本文読解〕本文読解でチェックした〈心情〉や〈描写〉を中心に、内容の要点を把握し、設問で問われている、九郎右衛門が「生真面目になった」理由を読み取る。(読解チャート参照)

→ 60行目に「叔父は非常な注意の集中をもって聞いていた」とある。

ここから、九郎右衛門が宇平から「いつもと違う様子」を感じ取っていたことが読み取れる。

また、68行目に宇平の〈描写〉があり、ここでも宇平がいつもと違う様子であることが分かる。

一方、そうした宇平の言動を九郎右衛門がどのように捉えたのかについては、70行目に「眉が高く挙がった」などの〈描写〉があり、その後72行目では「軽く微笑した」という〈描写〉がある。

- ④〔判断理由〕③で確認したポイントと傍線部までの内容を踏まえて、「生真面目になった」という〈描写〉の内容を把握する。

→ 九郎右衛門は宇平の言動に「いつもと違う様子」を感じ、またその言動には一瞬怒りを見せながらも、すぐにいつもの笑顔に戻っている。

このことから、「生真面目になった」とは九郎右衛門が宇平にいつもと違う様子を感じ取ったためであると考えられる。

以上のことを説明した選択肢を、解答として選ぶ。

問5 : ①〔設問チェック + アプローチ〕設問のキーワードは、「神仏」。

本文読解では、本文を通して九郎右衛門と宇平がそれぞれ「神仏」をどのように捉えていたかを把握する。

- ②〔本文読解〕①で確認したように、本文中の「神仏」のキーワードに注意し、チェックを入れながら九郎右衛門と宇平、それぞれの捉え方を把握していく。

→ 「神仏」に関する内容は、本文19行目と60行目以降にある。

- ③〔判断基準〕②を踏まえて、内容の要点を整理する。

- ・ 九郎右衛門 … 神仏の存在を信じている。神仏は助けてくれるかどうかは分からない。
- ・ 宇平 … 神仏の存在を信じていない。神仏は助けてくれない。

以上のポイントと本文の文脈を踏まえて、内容を適切に説明した選択肢を、解答として選ぶ。